パナソニック教育財団

21世紀型学力との関連を実証研究

1人1台のタブレットPC使った実践成果報告書

「One to Oneへの道」発刊

〝1人1台端末時代〟における学びとは？……。現在、2020年代に向けて、教育の情報化に関するさらなる検討が進められているなか、㈱教育同人社の書籍「『One to Oneへの道』1人1台タブレットPC活用の効果測定と教育委員会・学校の挑戦～ワンダースクール応援プロジェクト　成果報告書～」（監修：公益財団法人パナソニック教育財団）が発刊された。

「ワンダースクール応援プロジェクト」は、パナソニック教育財団の設立40周年を記念して行なわれた事業で、同書はその成果報告書となっている。

内容は①富山県富山市教委（富山市立芝園小学校）②愛知県春日井市教委（春日井市立出川小学校）③奈良県奈良市教委（奈良市立佐保小学校）④千葉県柏市（柏市立大津ヶ丘第一小学校）――の4つの教育委員会と小学校、パナソニック教育財団が共同で、2年間にわたって行った1人1台タブレットPCの〝未来型授業〟の実践成果を、アドバイザーである大学の研究者の解説とともに紹介したもの。

加えて、東京工業大学学長相談役・名誉教授の清水康敬氏が、タブレットPC導入の有無による学習成果について検証・分析。ICT活用と学力向上や協働学習との関連性について、非常に興味深いエビデンス（証拠）を示している。

構成は次の通り。

第1章＝学習効果の調査・分析の結果＜研究の目的と方法、教員を対象にした意識調査の結果、客観テストの結果、児童を対象にした意識調査の結果、客観テストの成績と意識調査の結果、好きな教科と客観テスト・因子との関係、自由記述分析の結果、第1章のまとめ＞

第2章＝各地区の取り組みと成果＜教育委員会の取り組み、小学校の取り組みと実践事例、アドバイザーによる実践を振り返って＞：富山県富山市、愛知県春日井市、奈良県奈良市、千葉県柏市

第3章＝One to Oneへの道　今後の展望：＜はじめに、「OECD／PISAデジタル能力調査の結果」をどのように読むか、学力保障・学力向上のためにICTを活用する動き、21世紀に求められる力・コンピテンシー（他者と協働する力）育成のためのICTの活用、「21世紀に求められる力・コンピテンシーの育成」から「学力保障・学力向上の取り組み」を再構築しようとする動きとICTの活用、今後教員や学校に求められる力とは、まとめ＞

第4章＝「ワンダースクール応援プロジェクト」を終えて＜著者紹介など＞

「同書で紹介されているのは、1人1台のタブレットPCを使った〝未来型授業実践〟です。ICT活用と学力向上や協働学習の関連性について、とても興味深いエビデンスを提示できました」と清水康敬氏。「今後、One to One環境が多くの自治体で整備されてその活用が進み、子どもたちの学力向上と社会に出て必要となる新たな学力の育成に役立つことを期待しています」と語っている。

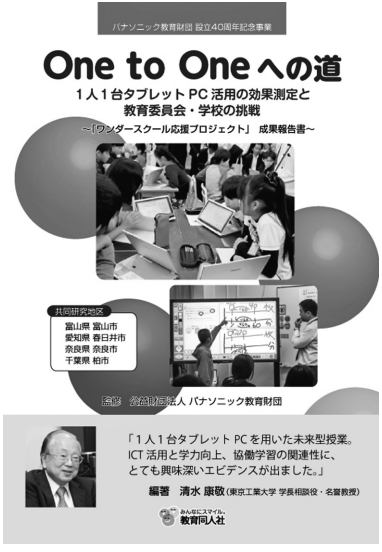
B5判・216ページ・カラー

定価：1500円（税別）

■問い合わせ＝教育同人社編集部　電話03・3971・5151

http://www.djn.co.jp/formbe/

編著者の東京工業大学学長相談役・名誉教授
清水　康敬氏



「One to Oneへの道」